

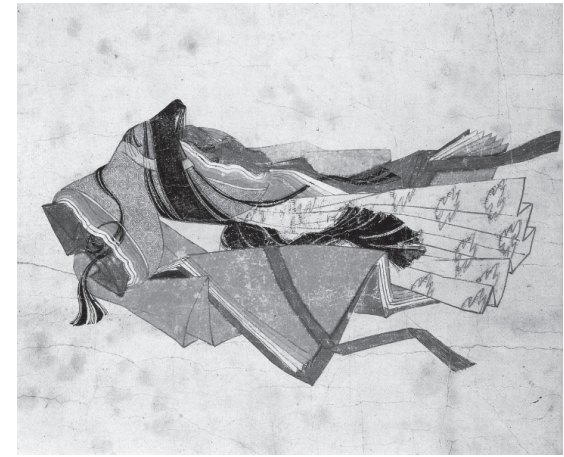
1 次の用言の活用表を完成させよ。

種類	基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
	打つ	打	た	ち				
ラ変	あり	あ	ら					
ナ変	往ぬ	往	な					
上一段	着る	(着)	き					
上二段	恨む	恨	み					
下一段	蹴る	(蹴)	け					
下二段	求む	求	め					
カ変	来く	(来)	こ					こ・こよ
サ変	す	(す)	せ					
形容詞(ク活用)	なし	な	(く)			き		
形容動詞(ナリ活用)	静かなり	静か	なら	に				
下に続く語			はず	けり	し	こと	ば	命令の 言い切り

○ラ変(ラ行変格活用)：「あり」「をり」「侍り」「いまそかり(いますかり)」の四語。
 ナ変(ナ行変格活用)：「死ぬ」「往ぬ」「去ぬ」の二語。
 力変(力行変格活用)：「来」の一語のみ。
 サ変(サ行変格活用)：「す」「おはす」の二語のみだが、「奏す」「対面す」など複合動詞も作る。
 ○下一段活用：「蹴る」の一語のみ。
 ○形容詞：ク活用・シク活用の二種類。下に「て」などをつけて見分ける。
 なし…なくて↓ク活用
 美し…美しくて↓シク活用
 ○形容動詞：ナリ活用・タリ活用の二種類。タリ活用の語は漢文体など限定的に使われる。

2 次の——線部a~hの用言について、例にならって活用の行(動詞のみ)と種類、文中での活用形を答えよ。

- ① 花の色はうつりにけりないたづらにわが身世にふるながめせしまに(小野小町)
 ② 風になびく富士の煙の空に消えてゆくへも知らぬわが思ひかな(西行法師)
 ③ 大江山いくの道の道の遠ければまだふみもみず天の橋立(小式部内侍)



小野小町 (「佐竹本三十六歌仙絵」より)

例	ラ行四段	活用	連用形	活用	活用	活用
①	活用	活用	形	形	形	形
②	活用	活用	形	形	形	形
③	活用	活用	形	形	形	形
④	活用	活用	形	形	形	形

3 次の文から変格活用の動詞を一つずつ抜き出し、その種類と文中での活用形を答えよ。

- ① もの一言、言ひおくべきことありけり。
 ② かぐや姫をえ戦ひ留めずなりぬる事をこまごまと奏す。
 ③ 男、「みやこへいなむ。」といふ。
 ④ いづら、猫は。こち率て来。

④	③	②	①	抜き出し	活用の種類	活用形
					活用	形
					活用	形
					活用	形
					活用	形

4 次の□内の用言を、()内に示した形に改めよ。

- ① ただ一つ二つなど、ほのかにうち光て行くもをかし。(連用形)
 ② 神へ参るこそ本意なれと思ひて、山までは見る。(未然形)
 ③ 初心の人、二つの矢を持つことなし。(命令形)
 ④ 木のさまにくげなりど、棟の花いとをかし。(已然形)

④	③	②	①